

第83回がん対策推進協議会

資料2-4

令和4年10月13日

文部科学省におけるがん専門 医療人材養成の取組について



高等教育局医学教育課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（H29～R3年度）

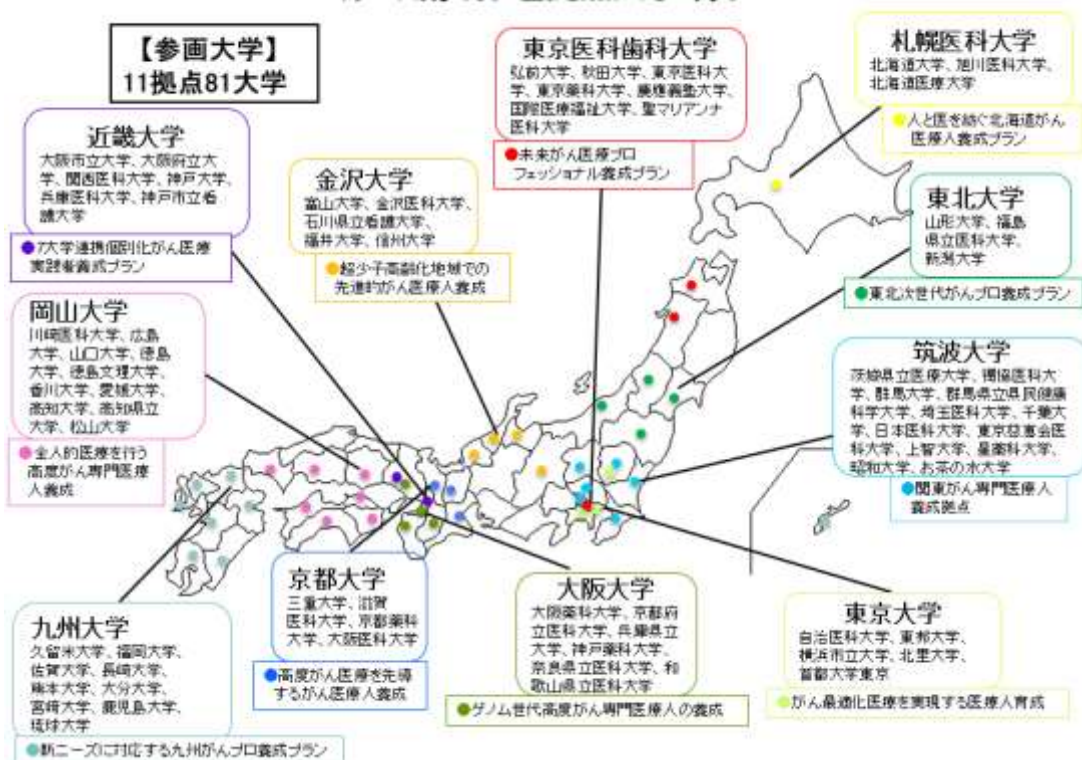
事業概要

がんに係る多様な新ニーズに対応するため、大学間連携による「がん医療人材養成拠点」において、

- ・ゲノム医療の推進
- ・希少がんや小児がんへの対応
- ・ライフステージに応じたがん対策

を推進する「がん専門医療人材」を養成することで、我が国におけるがん医療の一層の推進を目的とする。

第3期がんプロ拠点大学マップ



「がんプロフェッショナル養成推進委員会」にて事後評価を実施

【委員】※R4.6.1現在 敬称略

- | | |
|-------|-------------------------|
| 相羽 恵介 | 戸田中央総合病院腫瘍内科部長 |
| 天野 慎介 | 一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長 |
| 今井 浩三 | 北海道大学遺伝子病制御研究所客員教授 |
| 大津 敦 | 国立研究開発法人国立がん研究センター東病院長 |
| 小松 浩子 | 日本赤十字九州国際看護大学学長 |
| 齋藤加代子 | 東京女子医科大学医学部名誉教授・特任教授 |
| 瀧川千鶴子 | KKR札幌医療センター副院長 |
| 寺田 智祐 | 京都大学医学部附属病院教授・薬剤部長 |
| 中川 恵一 | 東京大学総合放射線腫瘍講座特任教授 |
| 西尾 和人 | 近畿大学医学部教授 |
| 羽鳥 裕 | 公益社団法人日本医師会常任理事 |
| 張替 秀郎 | 東北大学大学院医学系研究科血液免疫病学分野教授 |
| 堀 浩樹 | 三重大学大学院医学系研究科教授 |
| 本田麻由美 | 読売新聞東京本社医療部編集委員 |

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン 事後評価（R4.7）

事後評価で確認できた成果

特に、以下の点については、大きな成果として評価できる。

- 全国の大学において多数のがん専門人材を養成し、がん医療の高度化や均てん化に向けて貢献していること（11拠点で1,472のコースを開設、29,237人の受講生を受け入れ）

コース	実績	「ゲノム医療の推進」に特化したコース	「希少がんや小児がんへの対応」に特化したコース	「ライフステージに応じたがん対策」に特化したコース	その他のコース	計
正規課程コース	コース数	275	194	400	147	1,016
	受入人数	993	475	1,136	173	2,777
インテンシブコース	コース数	99	56	207	94	456
	受入人数	5,846	1,302	14,601	4,715	26,464

- ゲノム医療に従事する専門人材の養成により、遺伝子パネル検査の件数が増加するなど、新たな治療法として期待されるゲノム医療が広がりを見せてきていること
- YouTube等のSNSを活発に利用し、市民公開講座の動画配信など多数の情報発信が行われたこと
- 全国がんプロe-learningクラウドの活用については、教材コンテンツの拡充や新たな受講者の獲得に努め、コロナ過の中、その意義や効果がさらに顕著に現れたこと
- 波及効果として、本事業期間中に15大学において、がんに関連した講座が38講座（疼痛・緩和病態医科学講座、放射線腫瘍学講座、がんゲノム・腫瘍内科学講座等 ※寄附講座等を含む）新たに設置されたこと

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン 事後評価（R4.7）

今後のがん専門医療人材養成に対する期待

（１）がん医療の現場で顕在化している課題への対応を担う人材養成

① 痛みの治療・ケアの更なる推進

- ・緩和的放射線治療や神経ブロック等を担う人材
- ・多職種連携による集学的な痛みの治療・ケアを担う人材

② 地域に定着する放射線治療医・病理診断医等の養成

- ・地方におけるがん診療を維持するため、地域に定着する放射線治療医や病理診断医
- ・欧米に比べて遅れている放射線治療や核医学治療を担う人材

③ がん関連学際領域への対応

- ・腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学などがん関連学際領域にも精通した人材

（２）がん予防の推進を担う人材養成

① がんの予防医療の推進

- ・医療ビッグデータに基づくがん予防や治療を推進できる人材
- ・遺伝の専門医・専門看護師や遺伝カウンセラー等

② がんサバイバーに対するケアの推進

- ・がんサバイバーの身体的・精神的ケアと再発予防、就労支援、生活支援等を担う人材

（３）新たな治療法の開発を担う人材養成

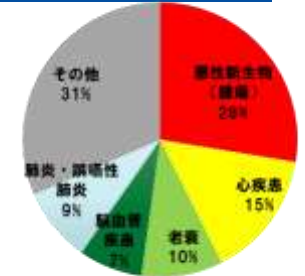
① がんの個別化医療・創薬の推進

- ・分子標的薬やコンパニオン診断薬、遺伝子治療薬等の創薬を担う人材
- ・ビッグデータや人工知能の活用等により研究開発をサポートする人材（バイオインフォマティシャン等）
- ・CAR-T療法や免疫チェックポイント阻害薬等の免疫療法に精通した専門薬剤師

背景・課題

我が国における高齢化や都市部への人口の集中がますます加速する中、現在の死因第一位である「がん」への対応は極めて重要である。地域格差に加え急速ながん医療の高度化に伴い、医療現場で顕在化した課題やがん予防の推進、新たな治療法の開発等の課題が浮上してきたことから、がん医療の新たなニーズや急速ながん医療の高度化に対応できる医療人養成を促進する必要がある。これらの状況を踏まえたがん専門医療人材を養成するため、優れた教育プログラムを開発し、大学間で連携し、開発・提供を担う拠点を支援する。

1	悪性新生物(腫瘍)	378,385
2	心疾患	205,596
3	老衰	132,440
4	脳血管疾患	102,978
5	肺炎・誤嚥性肺炎	121,196
6	その他	106,748
死亡者数計		1,372,755



(出典)：令和2年度人口動態統計(速報値)

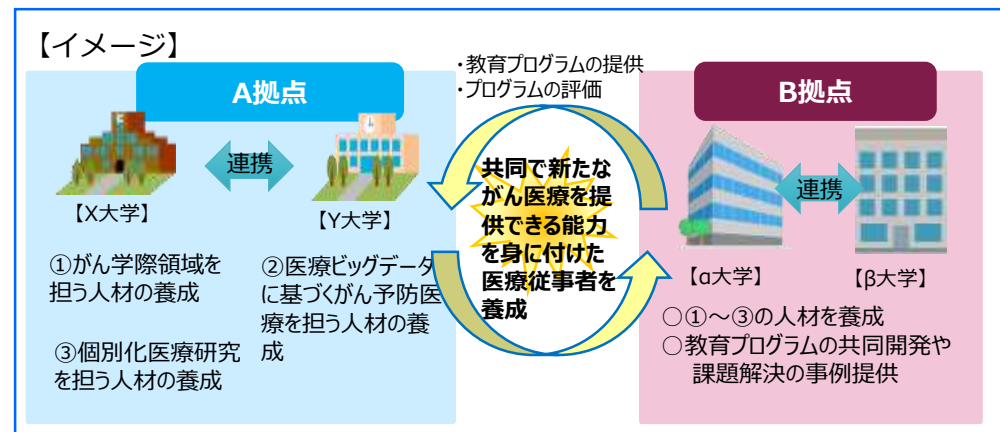
事業内容

○大学院レベルにおける教育プログラムを開発・実践する拠点形成を支援
(大学間で連携し、①～③のプログラムを開発・提供し、人材養成の拠点を形成)

- ①がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成（痛みの治療・ケア、地域に定着する放射線治療医・病理診断医、がん学際領域を担う人材）
- ②がん予防の推進を行う人材養成（医療ビッグデータに基づくがん予防医療、がんサイバーに対するケアを担う人材）
- ③新たな治療法を開発できる人材の養成（個別化医療・創薬研究を担う人材）

がん医療の新たなニーズや急速ながん医療の高度化に対応できる医療人が全国に

- 事業実施期間：令和5年～令和10年
- 支援期間：6年間
- 件数・単価：11拠点×8,800万円
- 交付先：医学系研究科（博士課程）を設置する国公立大学



【政府提言】 経済財政運営と改革の基本方針2022 (R4.6.7閣議決定)

がん専門医療人材を養成するとともに、「がん対策推進基本計画」を見直し、新たな治療法を患者に届ける取組を充実する等がん対策を推進する。

アウトプット(活動目標)

- 教育プログラムの開発 33件以上
〔各拠点において、事業内容①～③のプログラム開発を行う。
(11拠点×3種類)〕

アウトカム(成果目標)

- 【初期】教育プログラム学生受け入れ
- 【中期】がん専門医療人材数の増
- 【長期】個別化医療実施率の向上、がんの死亡率低下

インパクト(国民・社会への影響)、目指すべき姿

がん患者が地域を問わずオーダーメイド型のがん診療など必要な治療や支援を総合的に受けられるようになり、健康長寿社会の推進に貢献する。